施策：　小・中学校教育の充実　　　　　　　　　　≪　≫は、29年度の当初予算

事業名：　子ども読書活動事業	拡充	予算額	15,524　千円 ≪　15,159　≫

財源内訳		
	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他	千円
	一般財源	15,524　千円

【事業の目的・概要・対象】

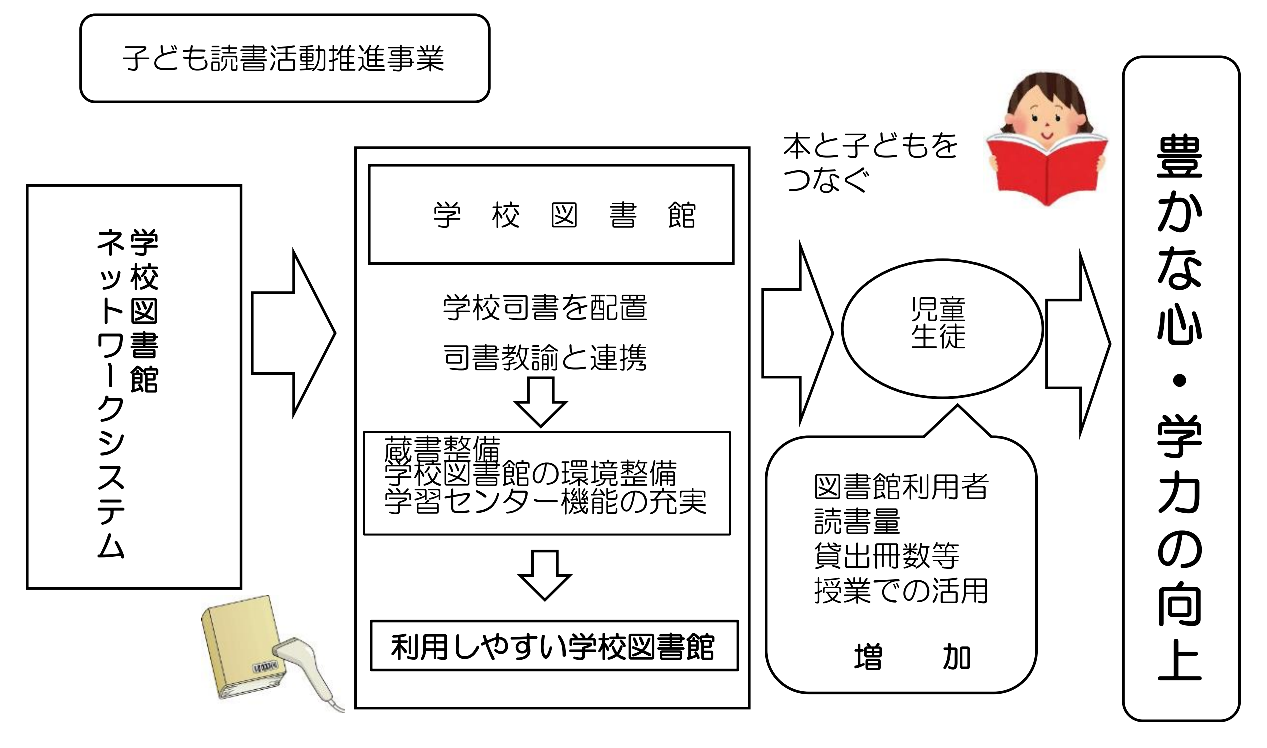
【目的】
児童生徒の「豊かな学力」を育むため、学校図書館ネットワークシステムを活用するともに、学校司書を配置することで学校における図書館教育の充実を図る。

【概要】
（１）学校司書が常駐し、各小・中学校の図書室における蔵書整備や学習センターとしての機能の充実等、本と子どもをつなぐきめ細やかな取組を行う。
（２）学校図書館ネットワークシステムを活用し、利用しやすい図書室づくりを行う。

【学校司書の役割・仕事】
図書の整理、図書の貸し出し、返却対応、児童生徒や教員への図書の紹介（個に応じた図書の紹介）、おすすめの本の紹介ブースの設置、児童生徒方からの図書に対する質問への対応、図書の購入の世話、図書室の掃除、図書の修繕・廃棄など

【対象】
教職員及び児童生徒

【拡充内容】
学校司書を３名増員し、司書教諭が不在の鈴田小、黒木小、萱瀬中に学校司書を選任で配置する。
※上記学校は、平成２９年度まで他の学校と兼務して学校司書を配置。



【背景】

感性・創造性豊かに現代社会を生き抜くための心を伴った児童生徒の「豊かな学力」の向上に資するため、学校司書を配置することで、蔵書整理や学習センターとしての機能の充実を図り、児童生徒が利用しやすい図書室をつくる必要がある。また、未来を担う子どもを育成するうえで、読書活動を推進することは重要である。

担当課	学校教育課	問合せ先	0957-53-4111（内線367）

【活動指標】

指標名			単位	H28（実績）	H29（目標）	H30（目標）	H31（目標）	H32（目標）
①	学校司書の人数	目標値	人	15	15	18	18	18
②	学校図書の貸出数	目標値	冊	488,707	489,000	490,000	491,000	492,000

【成果指標】

指標名			単位	H28（実績）	H29（目標）	H30（目標）	H31（目標）	H32（目標）
①	学校司書の人数配置校数	目標値	校	21	21	21	21	21
②		目標値						

【予算・決算】

年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31	合計
事業費	13,797	14,507	15,150	15,159	15,524	15,524	89,661
国庫支出金							0
県支出金							0
地方債							0
その他	56	56	216	48			376
一般財源	13,741	14,451	14,934	15,111	15,524	15,524	89,285
人件費	2,544	1,461	1,319	1,429	1,429	1,429	9,611
職員	0.33人	0.20人	0.18人	0.18人	0.18人	0.18人	1.25人
時間外勤務	25h	25h	5h	60h	60h	60h	235h
嘱託員							0.00人
フルコスト	16,341	15,968	16,469	16,588	16,953	16,953	99,272

妥当性（市の関与）	市立小・中学校の図書館の利用環境を整えることは、国の動きからも教育上欠かせないものであり、市の関与の必要性は高い。また、学校司書を配置することにより、児童生徒の読書環境が整備され、子どもたちが利用したくなる魅力ある図書館づくりにつながる。
有効性（施策貢献度）	学校司書の配置により、司書教諭との連携も図られ、図書館の環境整備が充実するとともに、図書室の利用率も高くなる。読書に対する児童生徒の意欲が高まり、貸出冊数や読書量の増加につながるものと考える。また、そのことは豊かな学力の育成につながるものである。
効率性（コスト）	学校司書については、昨年度の効果検証の結果を踏まえ、１５名を市内２１校に配置としている。また、学校図書ネットワークシステムについては、保守料のみであり、削減の余地はない。

1次評価	担当者意見のとおり
2次評価	1次評価意見のとおり